

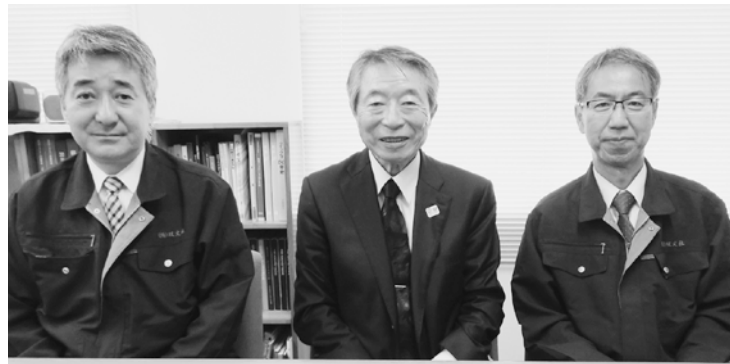
ジャグラ文化典 栃木大会 特集

双文社

強い「ジャグラ」を体現する 会員企業

潮見新本社工場に統合 日刊情報誌の生産体制強固に

【双文社(今井茂雄社長)は5月7日、東京都江東区潮見の新本社工場に移転し、生産業務を開始した。文京区本郷の三カ所を潮見新本社工場に統合し、生産効率を高めるとともに安定供給を整え、日刊情報誌の「一貫システム」を強化した。今井茂雄社長は「令和時代がスタートする日に新しい双文社が船出した。新本社工場は社員が快適に働く環境を最優先した。郵便物流拠点が至近でメリットが大きい」と新本社工場の特徴を述べている。



左から西島専務、今井社長、石田常務



潮見の双文社新本社工場

双文社は昭和38年に今井茂雄社長が千代田区猿樂町で創業、文字情報印刷を中興し、印刷会社。昭和48年から文京区本郷一丁目目本社工場に移転し、生産業務を開始した。文京区本郷の三カ所を潮見新本社工場に統合し、生産効率を高めるとともに安定供給を整え、日刊情報誌の「一貫システム」を強化した。今井茂雄社長は「令和時代がスタートする日に新しい双文社が船出した。新本社工場は社員が快適に働く環境を最優先した。郵便物流拠点が至近でメリットが大きい」と新本社工場の特徴を述べている。

近森膳写堂

事業継続への挑戦

次世代見据えて経営革新

日本グラフィックサービス工業会四国地方協議会は5月11日、高知市のなかやまで開催した第61回通産総会に合わせ、事例発表会を実施し、(有)近森膳写堂(近森専務社長・高知県高知市)の近森純一郎専務取締役が「事業継続に向けて奮闘中！未来のために絶えず進化する」を演題に、将来を見据えた事業継続のための取り組みと、印刷業に対する想いを語った。概要を紹介する。(文責編集)

ニシキプリント ひろしまフラワーフェスに出展 地域活性・障がい者就労を支援

進と地元のユニークな商品の企画・販売事業。企画・開発・障がい者就労を支援する。インクルーシブな社会を形成し、地域の活性化を支援する。インターネッティオのほかに、各種イベントや物産店に出展し、例えば、平和記念公園に捧げられた千羽鶴から作られた再生紙を利用して、折鶴を象ったアクセサリーや油とり紙、お和紙など地元の特産品を販売している。5回目の出展となった今年のは、お和紙のポスターカードと「お和紙のトリック」を作成し、お和紙のトリックショップを出品。また、物販ブースでは千羽鶴再生紙を使った折鶴アクセサリーや油とり紙、お和紙など地元の特産品を販売している。お和紙のトリックショップには、お和紙のトリックカードやアクセサリーを作る子供たちの笑顔が溢れた。



宮崎社長(右)と本社スタッフ



平和を祈る折鶴の再生紙を利用した商品



近森純一郎専務



近森膳写堂本社

近森膳写堂は1953年に近森純一郎氏の祖父が創業し、66年目を迎える。グラフィック印刷からスタートし、印刷事業へと業態をシフトしてきた。今ではデータ処理を得意とする印刷会社として、強みを打ち出している。工場にはリョービMH1グラフィックテクノロジーの四六全判オフセット印刷機のほか、軽オフの両面片面機一台ずつ、キヤノンのカラーPOD、コニカミノルタのモノクロオンデマンドプリンタ、理想科学工業のデジタル印刷機を取り揃えている。近森専務は「PODの導入が、印刷の効率を上げ、作業の負担を減らした。また、PODの導入は印刷工程の短縮にも繋がり、残業がほぼなくなった。日々の機械メンテナンスを欠かさず、止まらないようにすることで、夜間は自動化して生産性を確保した。インラインの後加工機を導入することで、例えば、50頁・200部の冊子印刷を1時間半から2時間で仕上げられる。それでも自社の設備だけに頼らず、出来ないことは

から制作、印刷、製本、配送まで一貫生産するA棟、B棟に分かれ、A棟には営業・管理部門とリョービ500半裁寸伸び4色LED UV印刷機、リョービ682半裁寸2色両面兼用機、リョービ520半裁寸4色印刷機、リョービ520半裁寸4色印刷機のカラ印刷部門が入る。B棟には編集制作、サーバールーム、富士フィルムCTP、富士ゼロックスColor 1000 Press、Versant 180、Versant 80、リョービA3両面印刷機5リョービA3両面印刷機5から制作、印刷、製本、配送まで一貫生産するA棟、B棟に分かれ、A棟には営業・管理部門とリョービ500半裁寸伸び4色LED UV印刷機、リョービ682半裁寸2色両面兼用機、リョービ520半裁寸4色印刷機、リョービ520半裁寸4色印刷機のカラ印刷部門が入る。B棟には編集制作、サーバールーム、富士フィルムCTP、富士ゼロックスColor 1000 Press、Versant 180、Versant 80、リョービA3両面印刷機5リョービA3両面印刷機5

入社してすぐ、危機的な社内を目的に当たらした近森専務は「どん底なら、あとは上を向くしかない」と決心した。その上で何とかしなければと事業の見直しを図り、少しずつ経営体質を変えていった。その積み重ねにより、4年前には過去最高の売上を達成した。近森専務が打った手の一つに「PODの導入」が挙げられる。それまで軽オフで印刷を手付け、特に仕事で何かに特化するということもなかったが、PODに切り替えて、小ロットに特化する業態に軸足を変えていった。PODの導入は印刷工程の短縮にも繋がり、残業がほぼなくなった。日々の機械メンテナンスを欠かさず、止まらないようにすることで、夜間は自動化して生産性を確保した。インラインの後加工機を導入することで、例えば、50頁・200部の冊子印刷を1時間半から2時間で仕上げられる。それでも自社の設備だけに頼らず、出来ないことは

3台のホリゾンペラ丁合製本中綴機3ライン、封入封筒機により主力の日刊情報誌を一貫生産する。石田敬治常務取締役は「これまで分散していた設備を一所に集中することで生産効率が良くなった。カラー印刷機の傍に用紙を置くことでオペレーターの作業効率が上がった。データ管理においてもサーバールームのセキュリティや温度管理を統一し、印刷から製本、封入、封緘までを途切れることなく行うことで作業時間を大幅に短縮することが出来た」と生産面でのメリットを述べている。

新本社工場の潮見地区はリョービA3両面印刷機5リョービA3両面印刷機5から制作、印刷、製本、配送まで一貫生産するA棟、B棟に分かれ、A棟には営業・管理部門とリョービ500半裁寸伸び4色LED UV印刷機、リョービ682半裁寸2色両面兼用機、リョービ520半裁寸4色印刷機、リョービ520半裁寸4色印刷機のカラ印刷部門が入る。B棟には編集制作、サーバールーム、富士フィルムCTP、富士ゼロックスColor 1000 Press、Versant 180、Versant 80、リョービA3両面印刷機5リョービA3両面印刷機5

環境を作り出したことに加え、社長交代を迫るのではなく、寄り添いあつて、何時でも交代できる体制を整えることにした。その一環として、現在、毎日の朝礼や月1回の社員との食事会を通じて、会社に対する想いを伝えながら相手の話を聞くようにしている。これまで事業を引き継ぎたいと近森専務を突き動かすのは、同社を創業した祖父の姿だった。幼い頃から優れた才を発揮する祖父を見てきた近森専務は「困っている人のために印刷しています。困りごとを解決すれば、喜んでお金を払ってくれます。事業で一番大切なのは存続すること、儲ける楽しさを知ることだと祖父に教えられました。目先の売上ではなく、トータルな利益を重視し、お客様と対等な関係を築けるように日々邁進しています」と事業継続に向けて研鑽を積んでいる。

プリントメディアの総合商社

SHOWA

一步先ゆく

そろそろこのマシンもガタがきてるな... 何か新しいことを始めないと... 最新の技術についていけない...
うちも本気でITに取り組みたい... そろそろ買い替え時だな...
次の基幹システムはどうしよう... やばい！また感材がきれてる...
また発注ミスが... 新システムを導入しても、使いこなせてない... もう少し効率よくできないものか...
お客様との連携がうまくない... よその会社はどうしてるんだろう... またクレームだ...
最近トラブル続きだな... 何か新しい提案ができないかな... 負担をもう少し減らせられないものか...

未来のグラフィックアーツを考えるショーワユーザー会

コラボレーション&リサーチ
SHOWA会
へのお誘い

年間の活動

- 研修会
- 工場見学会
- 総会・幹事会
- 会報・メールマガジンの発行
- 有志グループ活動

お問い合わせ、入会申し込みは事務局まで

SHOWA会 事務局 TEL: 03-3263-6141 FAX: 03-3263-6149

株式会社 **SHOWA**
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-7-8 TEL 03-3263-6141 FAX 03-3263-6149
http://www.showa-corp.jp